

早稲田大学簡帛研究会若手研究者発表会 報告要旨

早稲田大学簡帛研究会では、以下の日程で若手研究者の発表会を行いました。
報告内容は次のとおりです。

■ 第5回 早稲田大学簡帛研究会 若手研究者発表会

日時：2014年1月23日（木） 16：30～20：00

会場：戸山キャンパス 33号館3階 第2会議室

報告者①：峰雪幸人

題 目：「慕容政権遷都考」

概 要：本報告では、五胡十六国時代に成立した前燕と後燕という鮮卑慕容部の政権を一例として取り上げ、それらの政権における胡族的性格とその変遷からその国家のありかたに迫ってみた。その結果、鮮卑慕容部の中原進出と定住化という、従来「漢化」とされてきた出来事背景には、これまで注目されていた「遊牧」と「農耕」という二つの要素だけでなく、「商業」という要素にも十分に注意を払う必要があると指摘した。

報告者②：楯身智志

題 目：「前漢劉氏淮南王国の興亡」

概 要：本報告では、前漢高祖12年（B.C.195）から武帝元狩元年（B.C.122）まで存続した劉氏淮南王国の歴史を検討し、前漢前半期における諸侯王国の政治的位置づけについて再検討した。その結果、劉氏淮南王国が二度も皇帝候補に擁立され、一時は朝廷内外に絶大な影響力を誇っていたことを指摘した。従来、呉楚七国の乱以降の諸侯王国は有名無実の存在と化したと理解されてきたが、上記の検討結果よりそのような理解を見直すべきことを強調した。